

**トヨタ自動車株式会社**

トヨタ 純正車いす **ウェルチェア**  
**取扱書**

よくお読みになってご使用ください。  
取扱書は紛失しないよう保管してください。

**トヨタ自動車株式会社**

お客様用

トヨタ純正

車いす

# ウェルチェア

取扱書

このたびは、トヨタ純正車いす「ウェルチェア」をお買い上げいただき、ありがとうございました。ご使用前に必ずこの取扱書をお読みいただき、記載された内容にしたがって正しくお使いください。

本書は紛失しないように、いつでもすぐに取り出すことのできる場所に保管してください。なお、本品を他のお客様にお譲りになるときは必ず本書も合わせてお渡しください。

## 安全に関する表示

「乗員の方や他の人が傷害を受ける可能性のあること」や「車いす本体や周囲の物品の故障や破損につながるおそれがあること」と、その回避方法を下記の表示で記載しています。

これらは重要ですので、必ず読んで遵守してください。

- ⚠ **警告** ……記載事項をお守りいただかないと、重大な傷害や事故、最悪の場合は死亡につながるおそれがあること
- ⚠ **注意** ……記載事項をお守りいただかないと、傷害、車いすや周辺の物品の故障や破損につながるおそれがあること

## イラストのマークについて

してはならない行為を示すイラストには、下記のマークが記載されています。

⊘ **してはならない行為**

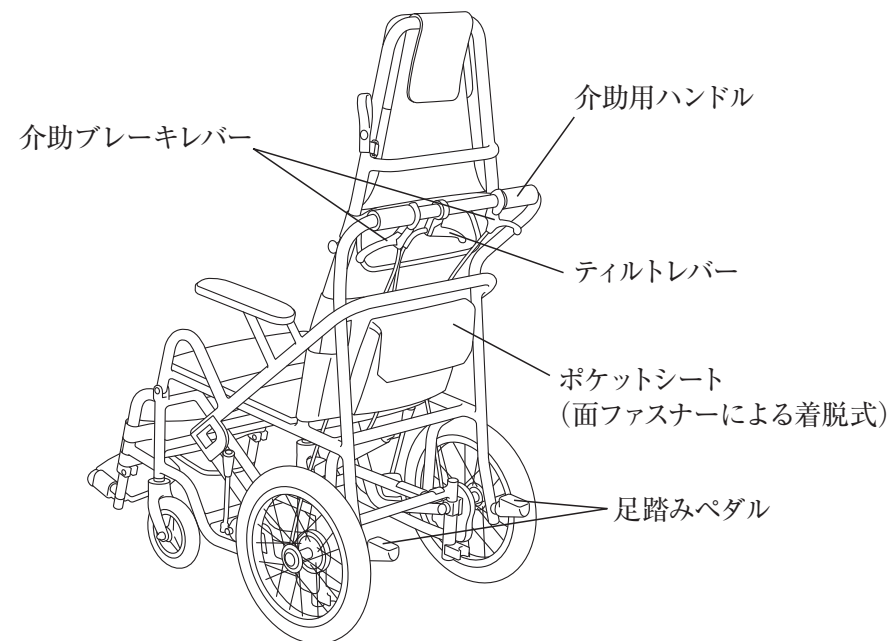
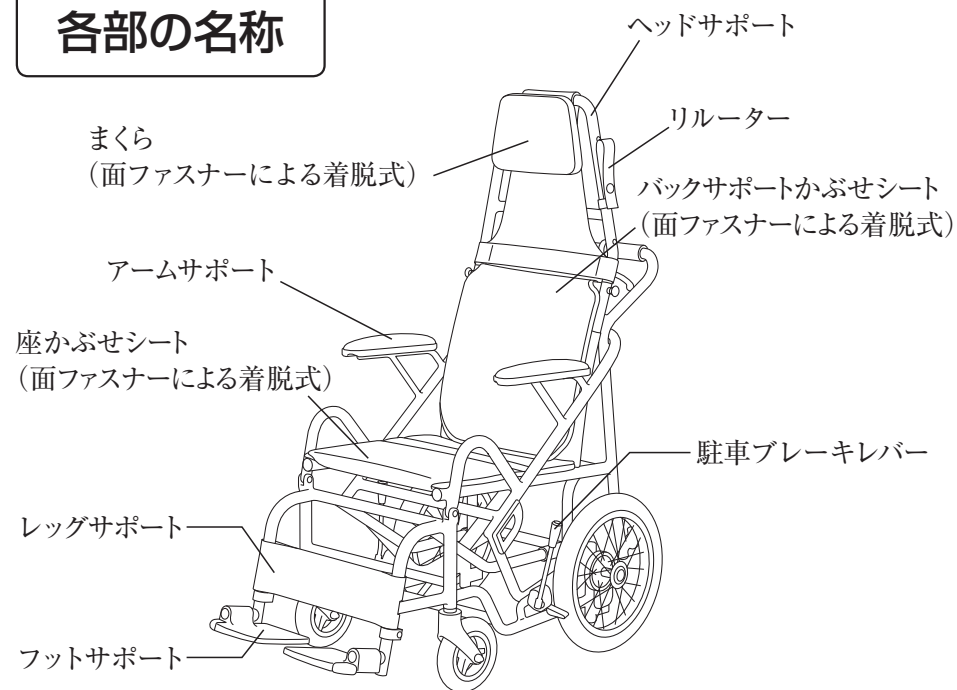
ご不明な点はお買い求めのトヨタ販売店へお問い合わせください。

トヨタ自動車株式会社

# 目次

各部の名称	3
ご使用前に	4
専用装置、装備の使い方	5
車いす仕様車への乗車方法	14
車いす仕様車から降りたら	22
フック位置目安ステッカー	24
ウェルチェアの使用	26

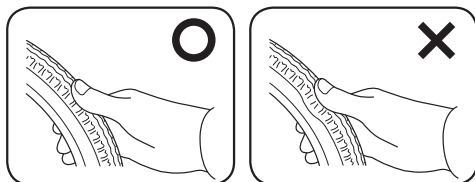
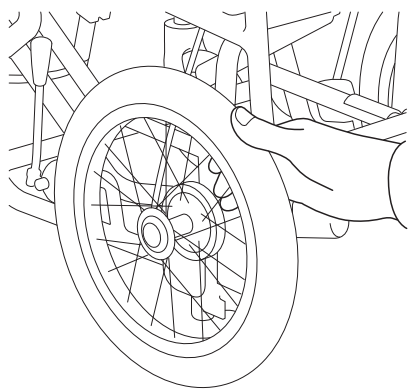
# 各部の名称



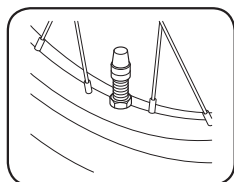
## ご使用の前に

■ご使用前に、安全にご使用いただく為、次の確認をお願いします。

- タイヤの摩耗・亀裂はないか。
- タイヤの空気圧は、適性に入っているか。
- 駐車ブレーキに異常はないか。
- 駐車ブレーキをかけたとき、後輪が回転しないか。
- 介助用制動ブレーキに異常はないか。
- 介助用制動ブレーキをかけたとき、後輪が回転しないか。



タイヤを親指で押し、容易にへこむ場合は、エアーを自転車用空気入れで補充してください。(最適空気圧：450kpa)



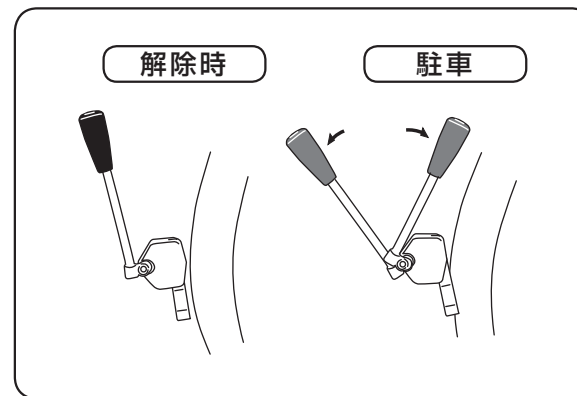
タイヤの空気バルブのネジが緩んでいないか確認してください。

### ⚠ 警告

タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。  
(ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動いてしまうなど、事故の原因となります。また、タイヤのパンクの原因となります。)

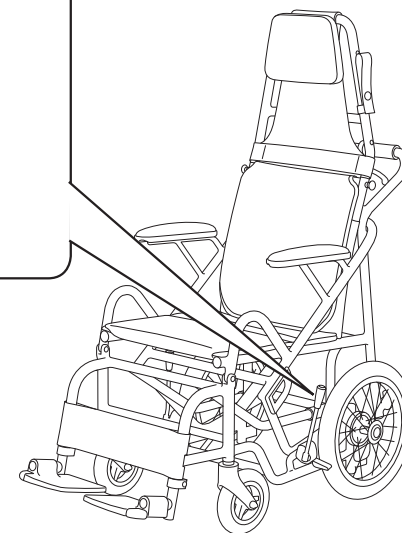
## 専用装置、装備の使い方

### 〈駐車ブレーキ〉



車いすの左右に装備されています。

- レバーを中間位置に操作すると後輪のブレーキが解除されます。
- レバーを中間位置から手間に引くか前方に押し、後輪のブレーキがかかります。

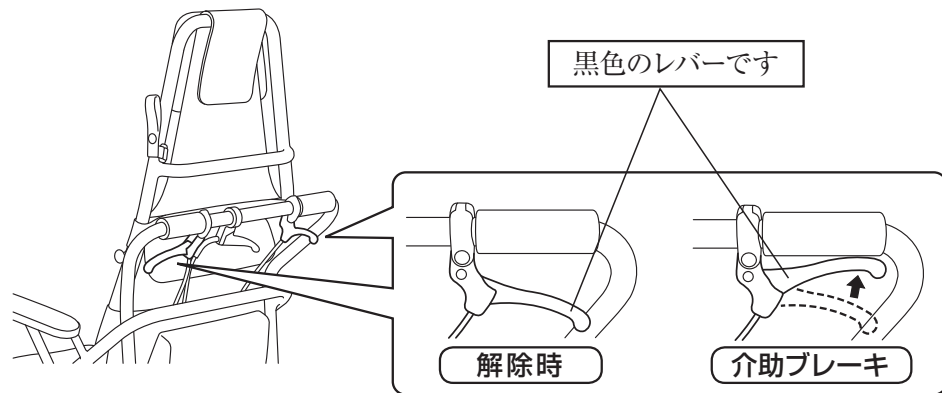


### ⚠ 注意

車いすの駐車ブレーキをかけるときは、以下の点に注意してください。

- 車いすに乗り降りするとき、もしくは車いすから離れるときは、必ず駐車ブレーキを使用し、両側後輪をロックしてください。左右両輪をロックしない場合、車いすが動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- しっかりブレーキをかけていても、乗降時などに横から強い力が加わると車いすは簡単に動いてしまいますので、十分注意してください。
- 坂の途中では駐車しないでください。やむを得ず駐車する場合は車いすの2輪以上の車輪に車止めの設置をしてください。

## 〈介助ブレーキ〉



介助用ハンドルの左右に装備されている黒色のレバーが介助ブレーキレバーです。

- 左右の介助ブレーキレバーを同時に握ると介助ブレーキがかかります。

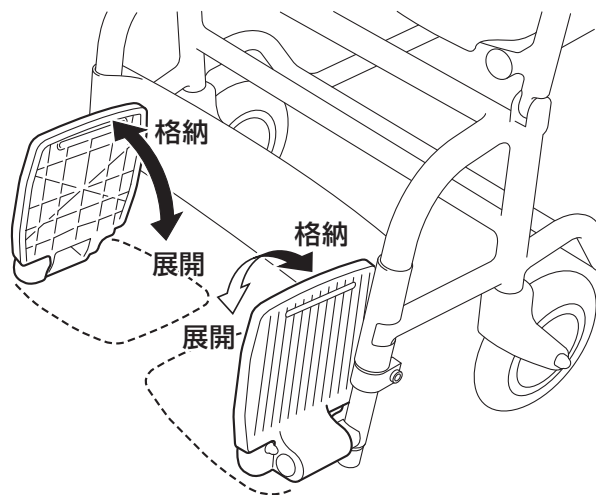
### ⚠ 注意

- 介助ブレーキは、駐車ブレーキとして使用することはできません。駐車目的で使用しないでください。

## 〈フットサポート〉

### 展開・格納

- 使用するとき、フットサポートプレートを展開します。使用者が車いすに座ってから展開するのが一般的です。
- 車いすから降りるときには、フットサポートプレートを格納します。



### ⚠ 注意

- 車いすを使用するときは、車いす乗車者の方の足がフットサポートプレートの上に乗っていることを確認してください。フットサポートプレートから足がおりていると、路面とフットサポートの間で足を挟まれ、けがをすることがあります。
- フットサポートの上に立たないでください。製品の破損だけでなく、転倒による事故のおそれがあります。
- フットサポートプレートを展開・格納するときは、必ずフットサポートプレートの先端部を持ってください。回転部近くを持つと、回転部で指などをはさみ、けがをすることがあります。

### フットサポート高さの調節のしかた

- フットサポートプレートの上にある、調節用ボルトを5mmの六角レンチでゆるめ、フットサポートの高さを調節してから、調節用ボルトをしっかり締めつけます。(電動工具やラチェットレンチなどを使用して強く締めすぎると、部品が破損する場合がありますのでご注意ください。)

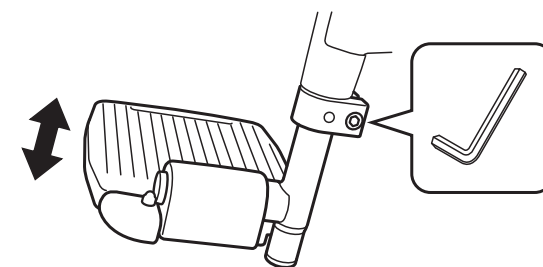
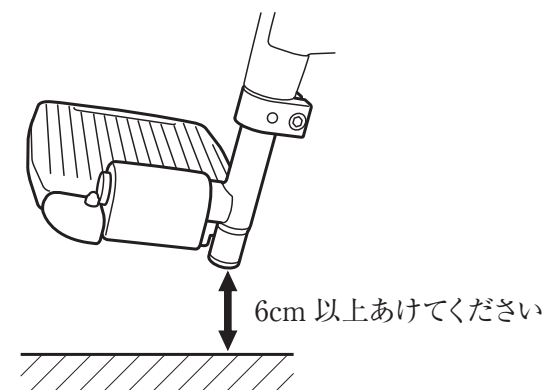


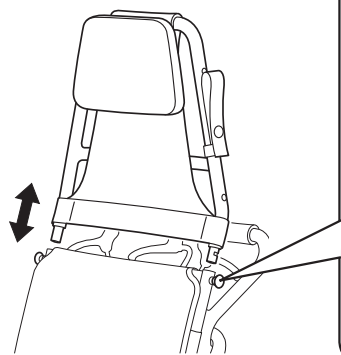
図1



### ⚠ 注意

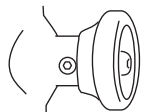
- 調節後はしっかりと調節用ボルトを締めて固定してからご使用ください。(電動工具やラチェットレンチなどを使用して強く締めすぎると、部品が破損する場合がありますのでご注意ください。)
- フットサポートの高さを下げすぎると、段差やスロープ等でつまずいたり、自動車への搭載時に自動車を傷つけることがあります。フットサポートの最下端部で、地面から6cm以上あげてください。(上図1)

## 〈ヘッドサポート〉



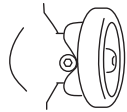
### ヘッドサポートロックボタン

#### ロック解除状態



ボタンが外側に引っぱり出された状態で保持された状態

#### ロック状態



ボタンが本体内部に引き込まれている状態

### 取り外し方

- 本体の左右にあるヘッドサポートロックボタンを解除状態にして、ヘッドサポートを引き抜きます。

### 取り付け方

- 左右のヘッドサポートロックボタンを解除状態にして、ヘッドサポートをいっぱいまで差し込みます。差し込んだあとに、左右のヘッドサポートロックボタンをロック状態にして、ヘッドサポートを固定させます。

#### ⚠ 注意

- バックサポートかぶせシートがヘッドサポートと本体の間に挟みこまれると、ヘッドサポートをしっかりと差し込むことができません。ヘッドサポートを差し込むときは、バックサポートかぶせシートを挟みこまないように注意してください。

#### ⚠ 警告

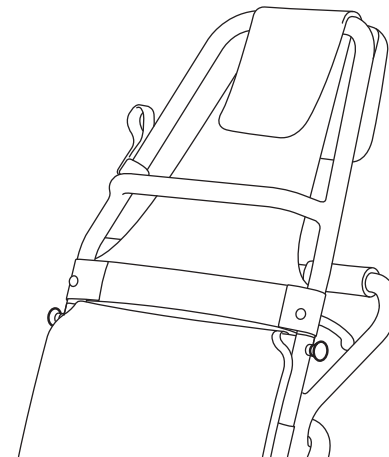
ヘッドサポートを取り付けたときは、以下のことを確認の上、ご使用下さい。

- 左右のヘッドサポートロックボタンがロック状態になっていることを確認してください。
- ヘッドサポートを上方に軽く引き、確実に固定されていて、抜けないことを確認してください。
- ヘッドサポートのガタが多くないことを確認してください。
- ヘッドサポートの前後が逆になっていないことを確認してください。

(p.11 図2)



図2



上のイラストの状態はヘッドサポートの前後が逆の状態です。上図の状態での装着、使用は絶対にしないでください。

#### ⚠ 警告

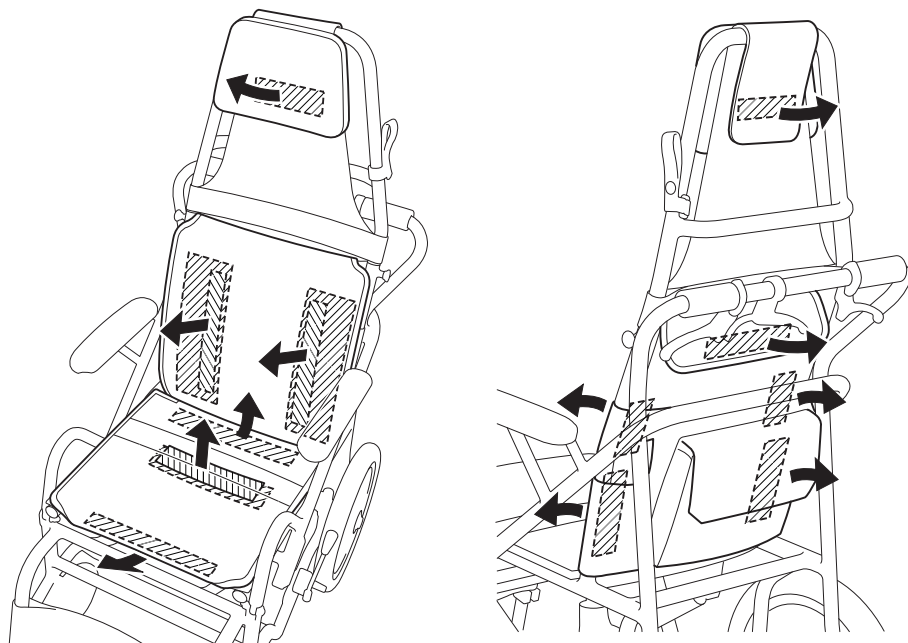
ウエルチェアを使用するときは、ヘッドサポートとまくらを必ず装着してください。

## お手入れのために

### 〈まくら、かぶせシート、ポケットシートのとりはずし方〉

まくら、背かぶせシート、座かぶせシート、ポケットシートは面ファスナーで貼り付けられています。

- 取りはずすときは面ファスナーをはがします。
- 取り付けるときは、まくら、座面および背もたれの面ファスナーの向きを確認し、正しく貼り付けてください。



#### ⚠ 注意

まくら及びシート類はお手入れのためにはずすことができるようになっていますが、これらをはずした状態でウエルチェアの使用をしないでください。ウエルチェアを使用する際には、必ず、まくらとシート・レッグサポートを正しく装着してください。



## 車いす仕様車への乗車方法

ウェルチェアは、背もたれと座面をティルトダウン（傾けて下げる）することにより、ウェルチェアに乗車したご利用様が、安定した姿勢で車いす仕様車に乗車できます。

### ⚠ 警告

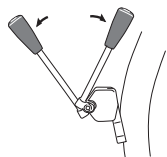
ウェルチェアは、自動車内では、座面をティルトダウンした状態で安定するように設計されています。ウェルチェアに座って、車いす仕様車内に乗車する際は、必ずウェルチェアの座面をティルトダウンさせてください。

### 背もたれと座面を傾けて下げる（ティルトダウン）

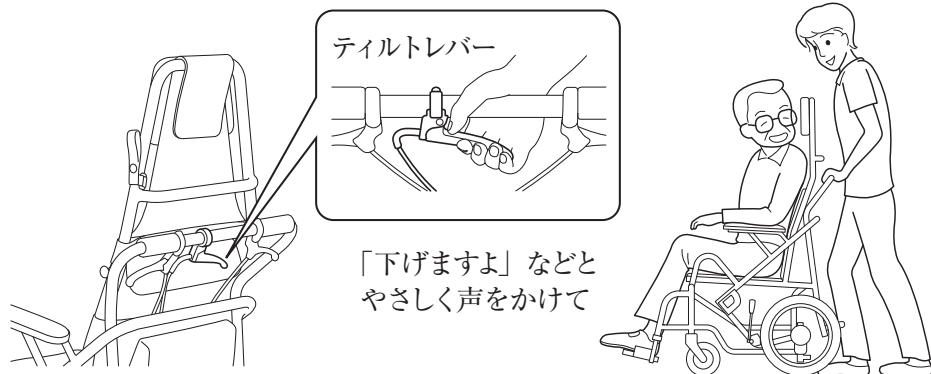
乗車する車の近くの平地で安全な場所で、ティルトダウンをさせます。ティルトダウン動作は、介助される方がウェルチェアに正しく座っている状態で、介助する方が行います。

#### 駐車

- ①ウェルチェアの左右の駐車ブレーキをかけます。



- ②ティルトダウンレバーを握りながら、介助用ハンドルを、下にゆっくりと押し下げます。介助する方は、動作前にウェルチェアに乗車している方に声をかけて、ティルトダウンさせることを伝えてから動作を行ってください。



ゆっくりと押し下げます



- ③介助用ハンドルを押し下げても、背もたれと座面がそれ以上下がらずに止まる位置まで倒してください。
- ④背もたれと座面が完全に止まったら、介助用ハンドルを下に押したまま、ティルトレバーから手を離します。ウェルチェアがティルトダウン状態でロックされます。（ウェルチェアがティルトダウン状態でロックされたら、介助用ハンドルを下に押すのをやめてください。）
- ⑤足踏みペダルのついたフレームの左右が、下図3のように、しっかりとパイプ受けにおさまっていることを確認してください。

図3

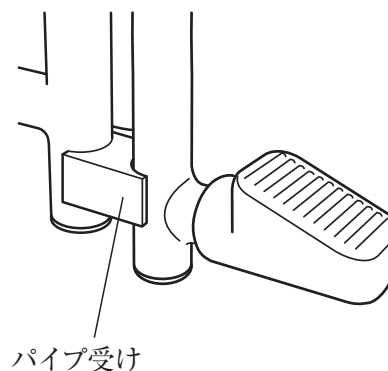
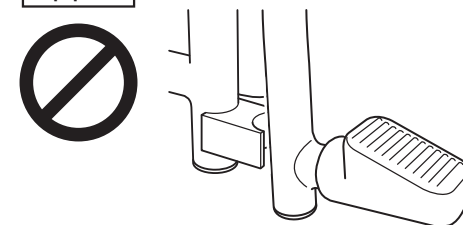


図4



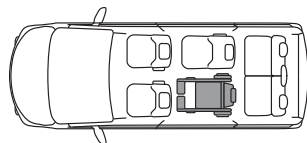
### ⚠ 警告

上図4のように、パイプ受けにパイプがしっかりとおさまっていない状態での自動車への乗車は絶対にしないでください。

- ⑥車いす仕様車に乗り込むために、安全を確認してからウェルチェアの左右の駐車ブレーキを解除します。

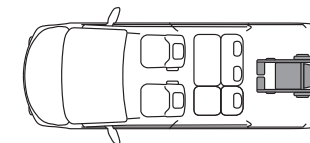
車いすの乗降操作につきましては、車いす仕様車の取扱書をご覧ください。  
ただし、乗車・固定用のフックをかける位置につきましては、以下の通りとなります。

ウェルキャブ (車いす仕様車 - スロープタイプ)  
ノア・ヴォクシー・エスクァイアの  
2列目に乗車する場合



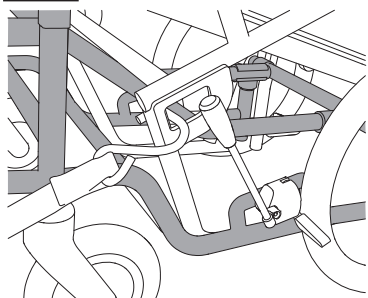
車いすの乗降操作につきましては、車いす仕様車の取扱書をご覧ください。  
ただし、乗車・固定用のフックをかける位置につきましては、以下の通りとなります。

ウェルキャブ (車いす仕様車 - スロープタイプ)  
ノア・ヴォクシー・エスクァイアの  
3列目に乗車する場合



セーフティーベルトのフックを  
かける位置

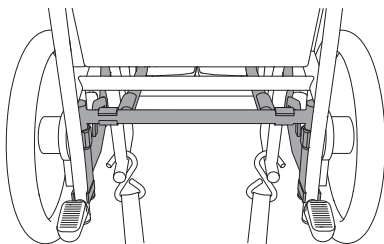
**前部**



左右2カ所にフックをかけます。

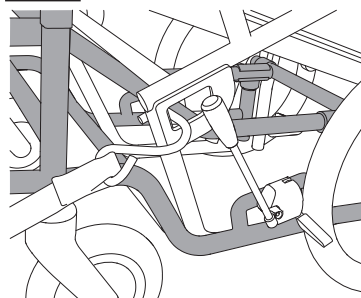
車いす固定装置のフックを  
かける位置

**後部**



セーフティーベルトのフックを  
かける位置

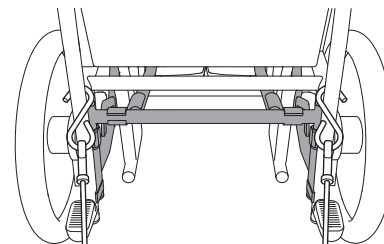
**前部**



左右2カ所にフックをかけます。

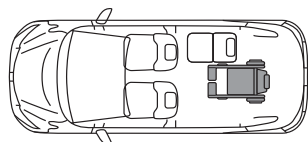
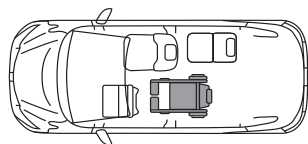
車いす固定装置のフックを  
かける位置

**後部**



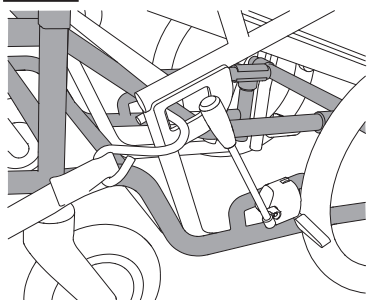
車いすの乗降操作につきましては、車いす仕様車の取扱書をご覧ください。  
ただし、乗車・固定用のフックをかける位置につきましては、以下の通りとなります。

ウェルキャブ (車いす仕様車 - スロープタイプ)  
シエンタに乗車する場合



セーフティーベルトのフックを  
かける位置

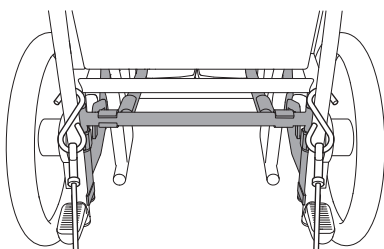
前部



左右2カ所にフックをかけます。

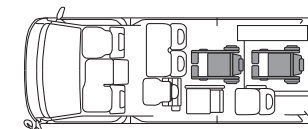
車いす固定装置のフックを  
かける位置

後部

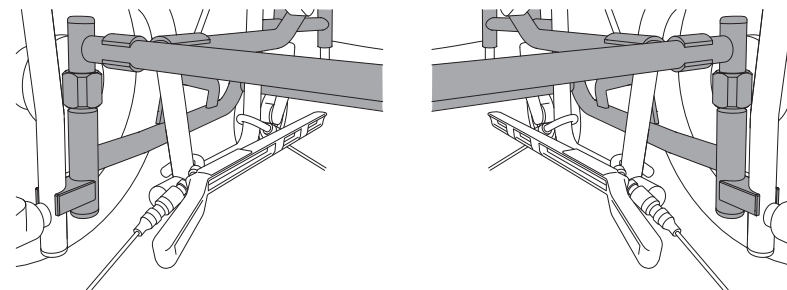


車いすの乗降操作につきましては、車いす仕様車の取扱書をご覧ください。  
ただし、乗車・固定用のフックをかける位置につきましては、以下の通りとなります。

ウェルキャブ (車いす仕様車)  
ハイエース及びレジアスエースに  
乗車する場合



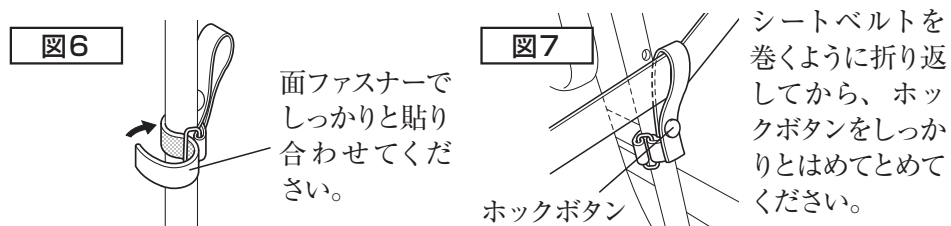
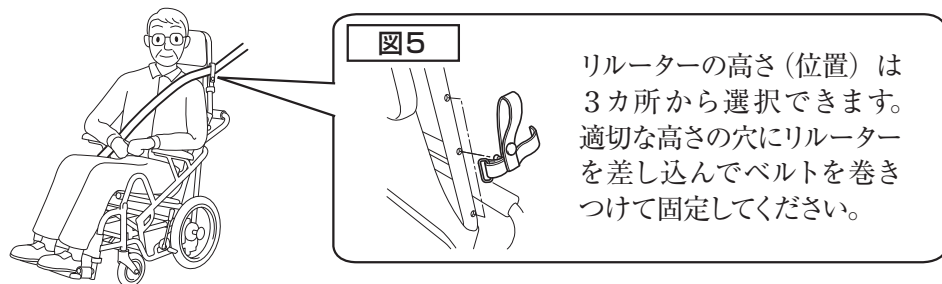
車いす固定装置のフックをかける位置



## リルーターを使用したシートベルトの装着について

シートベルトを、乗車する車いす仕様車の取扱書にしたがって装着してください。シートベルトが首や顔にかかってしまったり、肩から胸の部分にうまくかからない場合などは、ウェルチェアのヘッドサポートに装備しているリルーターの輪の中にシートベルトを通すことで、シートベルトのかかり方が適切になるようにすることができます。

リルーターの位置（高さ）は3カ所から選択できます。下図5の要領でリルーターの位置を調整してください。



### ⚠ 警告

リルーターを使用するときは、以下のことを確認の上、ご使用下さい。

- リルーターがしっかりとヘッドサポートの穴にはまっていることを確認してください。
- リルーターがヘッドサポートのパイプにベルトでしっかりと巻きつけられた状態で、面ファスナーがしっかりと貼り合わせられ（上図6）、リルーターが穴からはずれないことを確認してください。
- リルーターのホックボタンがしっかりとハマり、とめられていることを確認してください。（上図7）
- リルーターを使用中にリルーターが本体から外れたり、リルーターのホックボタンがはずれたりすると、シートベルトが体の不適切な位置にかかり、思わぬケガにつながるおそれがあります。

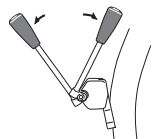
## 車いす仕様車から降りたら

### 背もたれと座面を傾けて下げた(ティルトダウン)状態から元にもどす

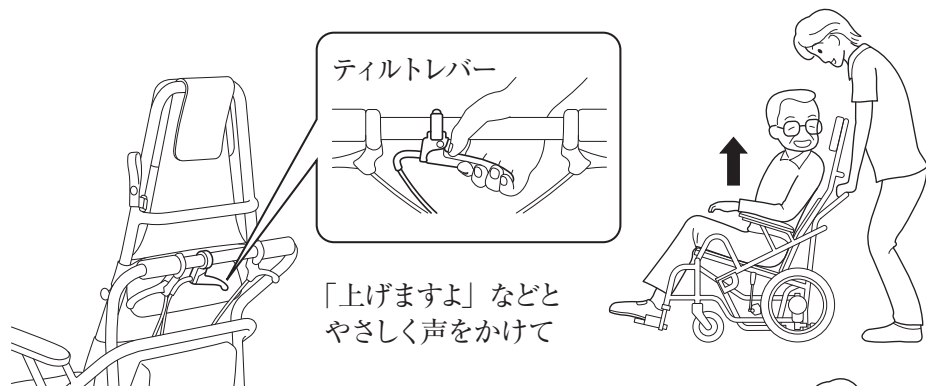
車いす仕様車から降りたら、平地で安全な場所で、ティルトダウン状態を元に戻します。ティルトダウン状態から元に戻す動作は、介助される方がウェルチェアに正しく座っている状態で、介助する方が行います。

- ①ウェルチェアの左右の駐車ブレーキをかけます。

#### 駐車



- ②ティルトレバーを握りながら、介助用ハンドルを上に ゆっくりと引き上げます。介助する方は、動作前にウェルチェアに乗車している方に声をかけて、ティルトダウン状態から元に戻すことを伝えてから動作を行ってください。ティルトレバーを握っていても、それ以上座面があがらなくなる状態まで、確実に引き上げてください。



ゆっくりと引き上げます。



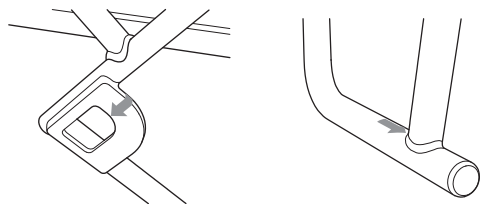
- ③完全に座面が上がりきったら、ティルトダウンレバーから手を離します。

## フック位置目安ステッカー

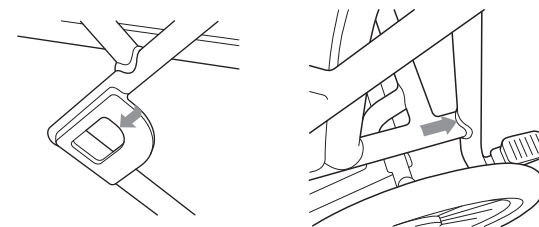
普段ウェルチェアで乗り込む車いす仕様車が決まっている場合は、車載用フックをかける位置に付属の矢印ステッカーを貼り付けることで、車載時のフックをかける位置が分かりやすくなります。

### 貼り付け例

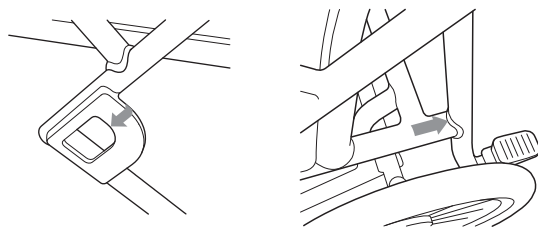
ウェルキャブ(車いす仕様車-スロープタイプ)  
ノア・ヴォクシー・エスクァイアの  
2列目に乗車する場合



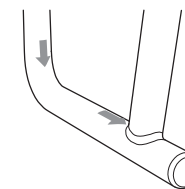
ウェルキャブ(車いす仕様車-スロープタイプ)  
シエンタに乗車する場合



ウェルキャブ(車いす仕様車-スロープタイプ)  
ノア・ヴォクシー・エスクァイアの  
3列目に乗車する場合



ウェルキャブ(車いす仕様車)  
ハイエース及びレジアスエースに  
乗車する場合



### ⚠ 警告

シールを貼ったあと、違う車種への乗車をするようになった場合には、シールを目安にフック掛けをせずに、乗車する車いす仕様車に対応した位置にフック掛けをしてください。

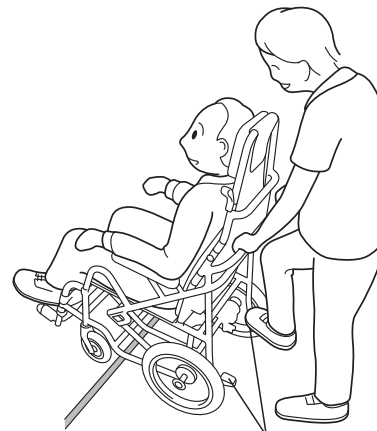
## ウェルチェアの使用

### ⚠ 警告

ウェルチェアを使用するときは、以下の点に注意してください。  
ウェルチェアの転倒や乗車者の転落など、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害を受けるおそれがあります。

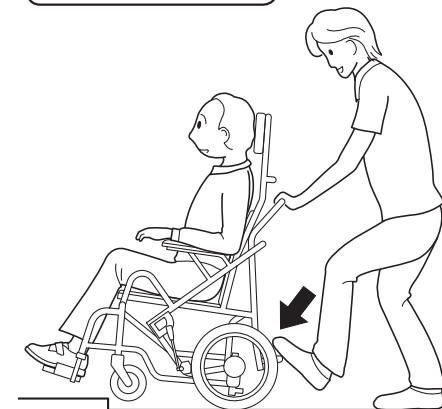
- ウェルチェアを使用するときは、必ず、足をフットサポートプレートの上のせてください。フットサポートプレートに足をのせないと、地面に当たった足を各部にはさむなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 駐車ブレーキがかかったままウェルチェアを走行させないでください。故障の原因になります。必ず駐車ブレーキを解除してからウェルチェアを走行させてください。
- ウェルチェアの性能を超える道を走行しないでください。  
整備されていない道（じゃり道、雪道等）はウェルチェアが走行できない、もしくは転倒などのおそれがあります。
- ウェルチェアの車輪や各部に強い衝撃や力を与えないでください。車輪や各部の変形、リンクの曲がりなどにより、ウェルチェアが使用できなくなるおそれがあります。
- 歩道の縁石、踏切等の溝、小さい凹凸などの段差に乗り上げるとき、介助者の方は、ウェルチェア後方の足踏みペダルを踏み、介助用ハンドルを上から押さえて前輪を上げ、段差を乗り越えてください。決して勢いをつけて無理に乗り越えようとしないでください。
- 段差を降りるときは後ろ向きに引くようにして降りてください。
- 下り坂では後ろ向きに降りるようにし、勢いがつきすぎないように注意してください。
- 人が乗っているときは、車いすを持ち上げたり、車いすをゆすったりしないでください。車いすから転落するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 操作時以外には、介助ブレーキレバー、ティルトレバーに手を触れないでください。車いすの誤動作の原因となり、事故につながるおそれがあります。
- ウェルチェアの各部に荷物をかけたりしないでください。操作レバー類に荷物が触れ誤動作が起り、思わぬ事故の原因となります。
- 車いす使用時には、乗車する方も介助する方も靴をはいてください。裸足やサンダル履き等で車いすを使用すると、足にケガをするおそれがあります。
- 異常に高温となる場所（駐車中の自動車内など）に製品を放置しないでください。製品が傷むばかりでなく、熱くなった金属部分で火傷を負ったり、高温になったシートに座ることで体調に悪影響を及ぼすおそれがあります。
- 製品に異常がある場合は使用を中止し、すみやかに買い求めのトヨタ販売店へご相談ください。

### 段差越え



足踏みペダル

### 段差越えのコツ

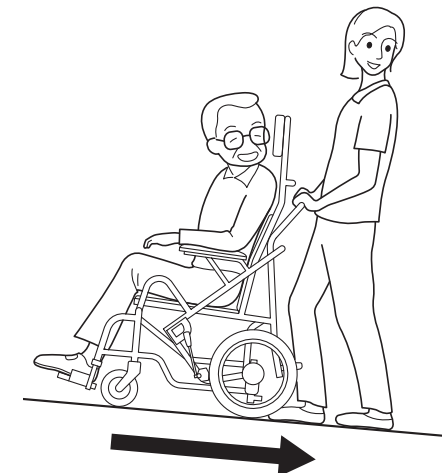


足踏みペダルは斜め前方向に踏みこみます。ウェルチェアが傾きすぎないように、介助用ハンドルをしっかりと握って支えてください。

### 坂道



上がるときは前向きで。



下るときは後向きで。

坂道では、前傾の姿勢で前向きで上り、後ろ向きで下るのが基本です。

